地域おこし協力隊
活動レポート

協力隊が行く！

今月の担当は りっか隊員です！

こんにちは、地域おこし協力隊の篠塚立夏です。最近、読書に夢中です。図書館には大変お世話になっていて、タダで本を貸してもらえるありがたみに浸る日々。3月中は休館するそうですが、リニューアルした図書館に通うのが楽しみです。

枕崎で過ごす格別なお正月

3月号なのに、今さらお正月の話題で申し訳ないですが…枕崎で過ごしたお正月は、これから何年先にも思い出される大切な節目として記しておきたいと思い、筆を執りました。お正月を枕崎で迎えるのは今年で2回目でしたが、回を重ねるほどに味わい深いものです。これまで「お正月＝家で静かに過ごさなければならない退屈なもの」という固定概念があったので、昨年はそれが一気にひっくり返り、度肝を抜かれました。元旦早々から初日の出と火の神乙女太鼓の初打ちを見に集まり、南方神社へ初詣に行くと、たくさんの知り合いと顔を合わせ、さらにハマテゴ、立神相撲、消防出初式といった伝統行事の数々。今年は残念ながら叶わなかったものも多くありましたが、カツオの水揚げ・初競りを見学することができました。夜明けとともに動き出す港、冷たく張り詰めた空気のなか飛び交う威勢のいい声。枕崎を支える人々の逞しい姿を見て、私も頑張らなければ、と気持ちを新たにすることができました。ありがたいことに、観光協会の方のご厚意で鹿児島流お雑煮も初めていただき、その美味しさに大感激。きっとこれから先、どこでどんな風に年始を迎えても、枕崎でのお正月を思い出すことでしょう。

悔いのない協力隊生活のために

4月をもっていよいよ地域おこし協力隊最終年度となります。時が経つのはあっという間ですね。枕崎に引っ越してきた日のことを、今でも昨日のことのように思い出すことができます。改めて枕崎のことを深く知りたいと思い、平成元年に発行された枕崎市誌を読んでいたところ『枕崎の方言』という章に出会いました。かねてから興味のあった方言の世界。私自身は方言を持ちませんが（幼少期は茨城弁を流暢に話していたそうですが…笑）、それゆえに地場の暮らしが色濃く反映された「言語」により一層魅了されているのです。こんなにも難解でおもしろい方言がせっかく身近にあるのだから、残り1年をかけてきちんと勉強しようと決意しました。ゴールは、貴重な文化的資源として形に残すこと。まだ構想が固まりきっていませんが、紙媒体にまとめたり、枕崎弁ネイティブのみなさんと一緒にラジオ配信的なことができるといいな、と考えています。そんな夢を含めた「協力隊卒業までにやりたい50のこと」をインスタグラムで発信してみました。よろしければ覗いてみてください。そして、ネイティブスピーカーのみなさん、私の夢の実現にぜひご協力いただけるとうれしいです！

市長コラム vol. 24

絶対感覚

昨年の1月に国内で新型コロナウイルスの感染が確認されてから1年以上が過ぎました。この原稿を書いている2月19日現在も、今なお感染の第3波が収束を見せないこのしつこい感染症は、世界各国で、わが国で、そしてここ枕崎でも大きな困難をもたらしました。3月に全国に出された緊急事態宣言、大型連休後には少し落ち着きを見せたものの夏場に感染の第2波、再び落ち着きを見せて国も経済回復へ軸足を移した秋以降、冬を迎えて三たび襲ってきた今回の第3波、本当にこの感染症に翻弄され続けた1年間でした。

私のこの1年を一言で言うと、とにかく「鍛えられた」という印象です。市長としての仕事を進めていく中で、本当に鍛えられました。この1年間、コロナ禍の中で私が一番大事にしてきたことは、以前このコラムにも書きましたが「想像力を働かせる」ということでした。この未知の感染症と対峙する中で、「想像力を働かせる」ということの大切さを痛いほど感じさせられました。ただ、この想像力、政治家として仕事を進めていく上では、基本的なスキルとして持っておかなければならないものだと思っています。そしてスキルよりさらに大切なのがセンス。センスとは何かというと、一流になるための「絶対感覚」です。どんな分野でも、一流とそうでないものを分けるのがこの絶対感覚だと思います。しかも想像力や絶対感覚は、筋肉や脳と同じく、使い続けなければ劣化してしまうという性格のものです。

政治上の決断は、まだ結果がどちらに転ぶかわからない時期に下さなければならないことが多くあります。特に今回のようなかつて経験したことのないパンデミックの状況では、特にそういうことが言えると思います。最後は、歴史が評価することになろうかと思いますが、この今の時代に政治がどんな決断をしてどんな施策を行ったかが、この先の枕崎市の将来に大きく影響をしてくるのだろうと考えています。そのために大切なのが政治感覚という絶対感覚です。

私は、これからも、この政治感覚という名の「絶対感覚」を鍛え続けながら、仕事をしていきたいと思っています。

枕崎（まく）×人（ひと）×仕事（しごと）　No.12

鮫島　佳代（かよ）さん　(41)

小規模多機能ホーム 花渡川／中央町

「枕崎×人×仕事」では、枕崎にあるさまざまな仕事と、その仕事に携わる人を紹介します。
今月は、小規模多機能ホーム「花渡川」を取材しました。

住み慣れた地域や自宅でいつまでも生活したいという高齢者のニーズに応えて新設された「小規模多機能ホーム」は、一つの事業所で訪問（ヘルパーステーション）、通所（デイサービス）、宿泊（ショートステイ）の機能を有する介護事業所です。今回は小規模多機能ホーム「花渡川」に勤務する鮫島佳代さんを取材しました。

指宿市出身の鮫島さんは、介護関係の専門学校を卒業後、枕崎の介護施設で働き始めました。出産を機に子どもと過ごす時間を大事にしたいと、一度介護の仕事を離れますが、再び働こうと思った時、選んだ仕事は、やはり介護の仕事でした。

母親が介護の仕事に就いていて、幼い頃から母親の姿を見てたことや、身近なところに祖父・祖母がいたことが介護の仕事を目指そうと思ったきっかけだと話します。

現在、介護の仕事を始めて20年目になる鮫島さんは、4人の子どもの子育ての真っ最中でもあります。子育てと仕事の両立は難しいこともたくさんあったそうですが、子どもたちのためだから仕事も頑張れたと話します。周囲の協力もあり、一番下の子が生まれた時には、生後2カ月を過ぎた頃には職場に復帰していました。その時は、職場に子どもを連れて行き、花渡川の職員の皆さんや利用者の皆さんが一緒に子育てをしてくれていたそうです。

花渡川での主な仕事は、利用者の皆さんの介助。朝は体操やレクリエーションを一緒にして体を動かし、昼食やお風呂を手伝い、そして体操、おやつという流れで一日が終わります。利用者さんが伝えたいこと、訴えることを理解できない時は悔しさやもう少し話をしっかり聞いてあげればよかったという後悔が残ることもありますが、利用者さんからの「ありがとう」の言葉がこの仕事の一番の魅力と話す鮫島さん。「花渡川を知らない人がまだまだいるので、知ってもらえるような活動をしていきたい」と笑顔を見せます。

第14回 枕崎ぶえん鰹スタンプラリー開催

5.31まで 応募締切

ルール　飲食店・おみやげ店・観光施設などを巡り、スタンプを３つ集めて完成です。枕崎の特産品を存分に味わってもらうため、必ず１つは飲食店でスタンプを押してください。

応募方法　応募はがきは参加店舗に置いています。スタンプを押して、郵送（63円切手を貼付）してください。

当選発表　景品の発送をもって当選者発表とします（抽選日は6月中旬予定）。

参加店　【飲食店】魚処なにわ、味処一福、Café THE OLD MAN、だいとく、居酒屋食堂つちふまず、すし匠五条、魚処まんぼう、枕崎お魚センターレストラン、あじひろラーメン、食工房彩、花渡川ビアハウス、みんなのゑびす家、ダイニングバーENGINE、ABC. American bar cannon、食事処福寿庵、旬鮮食楽　燵仁、こきこっ子、タカララーメン、グランド食堂、さかなや食堂、かたらい亭、花むらさき

【観光・おみやげ店】枕崎駅前観光案内所、南溟館、漁協購買部、お茶の厚石園、南薩地域地場産業振興センター、枕崎お魚センター（お土産店）、枕崎市かつお公社、まるた屋、薩摩酒造明治蔵、枕崎おだし本舗かつ市、松野下蒲鉾（長吉屋）、くわはら農園＋

【ホテル・観光】枕崎なぎさ温泉、グリーンホテル福住、枕崎観光ホテル岩戸、シティーホテル福住、枕崎ステーションホテル、ゲストハウスＭａｃ、輝津館（南さつま市）、タツノオトシゴハウス（南九州市）

問合せ　枕崎ぶえん鰹スタンプラリー実行委員会（駅前観光案内所）　TEL78-3500